

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

F. その他

④その他

《理工農系》

●静岡大学情報学研究科情報学専攻

「マニフェストに基づく実践的IT人材の育成」の事例

＜博士課程進学者を増加させることができなかったこと＞

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本プログラムでは修士2年間・博士3年間の一貫的教育も意図していたが、情報学研究科修士課程から自然系教育部博士課程への進学者(一般入試学生)は増えたとは言えない。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

他大学でも博士課程進学者の減少という同じ問題を抱えていると考えられる。原因の一つに、日本の企業・社会で博士課程修了者の求人が非常に少なく、また大学内のポストも限られていることがあげられる。本GPおよび博士課程独自のキャリアパス講演会によって、博士課程に進学した場合のキャリアパスを提示したもののその実現可能性が小さい事などから進学者が少なかったと考える。その結果、修士課程・博士課程の一貫的な教育を充分に行うことができなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

博士課程進学希望者の学習支援のために、修士課程学生の若干名を選考によって『ジュニアリサーチアシスタント』に採用した。また、「民間企業研究所見学会と研究所研究員と学生との意見交換会」や国内外インターンシップ、大学院GP講演会、博士課程独自のキャリアパス講演会を実施し、大学あるいは企業での研究者として活躍する進学動機付けを行った。企業研究者を目指す博士課程学生は割合としては多いが機会が少ないことや9月修了生が既卒扱いになるなどの問題があり、博士課程進学者の増加にはつながらなかった。教育システムだけでなく社会全体の問題に関係する課題と考える。